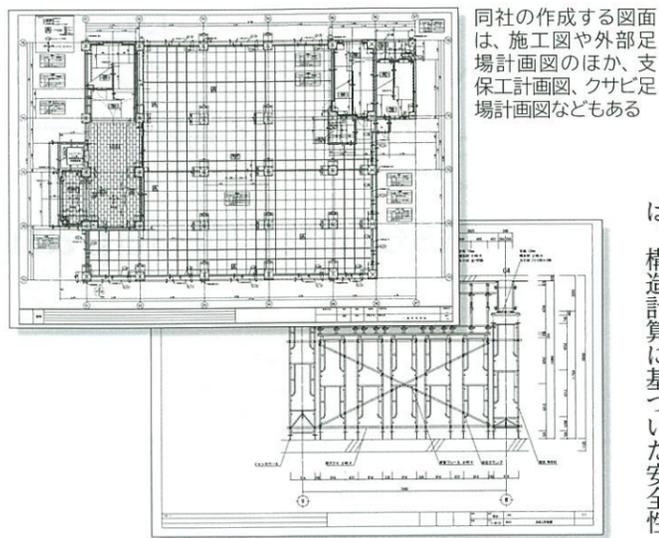


設計図の作成実績5000件! 現場監督のデスクワークをサポート 古川建築事務所



同社の作成する図面は、施工図や外部足場計画図のほか、支保工計画図、クサビ足場計画図などもある

若手技術者のモチベーションのために
現在、従業員数20名の同事務所は、古川さんをリーダーに、チーム編成がなされている。例えば「足場チーム」の仕事は、単に図面を清書するだけの作業ではない。古川さんの経験と、事務所の実績をバックボーンとし、クライアントから提供された建物の設計図をもとに、オペレーターがイチから計画図を作成していく。足場計画図では、構造計算に基づいた安全性



同事務所の仮設計画図から、足場と支保工が組み立てられる。写真は、八戸ポータルミュージアム

デスクワークを減らす現場監督のパートナー

例えば一つのビルを建設する時、そこにはさまざまな建築技術者が携わっている。それは設計者や、工事と図面を照合する工事監督者、さらには現場監督（施工管理者）と、多くの職人たちだ。
工事に直接携わる職人たちは、設計者が描いた設計図だけで建

物を築けるわけではない。何かを組み立てるにしても、設計図よりも専門的な各「施工図」が必要となるし、高所作業で足場を立てる際には「足場計画図」も必要となる。

それらを作成するのは現場監督の仕事。一つの工事の中でも工区や工程ごとに施工図が必要になるため、現場監督は、現場で職人の作業を指揮するほかにも、事務所では施工図や計画図を描いたり、品質管理・安全管理の書類を作成したりと、デスクワークに追われている。

青森県上北郡に本社を置く古川建築事務所は、「現場監督のパートナー」を掲げている。総合設計計画、建築施工図・竣工図、足場計画図などの作成や、監督の派遣も行っている。

代表の古川直人さんは、地元「元々、子どもの頃から大工さんに憧れ、小学生の頃は、鉛筆を耳の後ろに挟んで大工さんの真似事をしていた」という古川さん。ものづくりへの憧れが、

合理的な目を持つ職人に鍛えられた

ゼネコン時代、現場経験を積み、現場監督まで務めるようになったが、ある日古川さんは、はたと気づいた。

「現場監督はたしかに魅力的な仕事だが、年に数棟を建てるのが限界。しかし、施工図をたくさん描くことができれば、自分が携わった建物をもっと社会に増えるのではないかと？」
こうして2002年に開業した事務所は、以来10年以上が経過し、これまでの設計実績は5000件以上にのぼる。

「現場監督時代に多くの施工図・計画図を作成してきましたが、時に職人さんから『こんな計画図じゃ、手間がかかってダメ!』と、どなられることもありました。効率が悪ければ、それだけ労務費がかかるのですから、彼らにとって死活問題。合理的な目を持っている彼らに鍛えられたからこそ、自信が持てるようになりました」



上北郡おいらせ町にある事務所。作業に集中できるよう、オペレーターごとにプライバシーが確保されている



■事業所名:古川建築事務所
■所在地:〒039-2221 青森県上北郡おいらせ町上前田78-3
■TEL:0178-52-8531
■FAX:0178-52-5842
■設立:2002年7月
■代表者:古川直人
■従業員:20名
■事業内容:建築施工図・仮設計画図の作成・監督派遣
■URL:http://kogawa-act.jp/
■E-Mail:info@kogawa-act.com

「私自身、若い時は上京して都会の建物の施工に携わりたいと思ったこともありましたが、しかし、私たちの事務所のビジネスモデルなら、地方にいても、大都会の建物に携わることができる。若い時の私と同様に、携わった仕事の場所や規模の大きさは、若手の技術者にとってのモチベーションにもなります」
古川さんのその言葉には、日本の抱える課題である「建築技術者の減少」を解決するヒントがあるかもしれない。